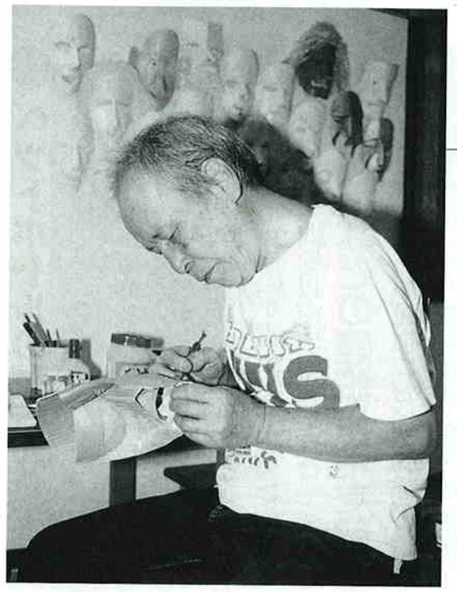
紙とは思えない質感
不思議な世界を持つ作品です

HITO

伊藤　亘（わたる）さん
（紙工芸作家）


伊藤さんのダンボールのお面は、市民劇団「銀杏の会」公演のミュージカル「マッチ売りの少女」の群舞の場面で登場します。今は、11月23日に開催される所沢ミューズでの公演に向けて、そのお面作りに大忙しです。

青柳にお住まいの伊藤さんがペーパーレリーフを手掛けたきっかけは、クリーニング屋さんでワイシャツに挟んでくれるボール紙を利用できないかと考えたのが始まりです。もともとグラフィックデザイナーだった伊藤さんは、たくさんたまっていく紙の束を、持ち前のセンスで重ねて貼り合わせたり切り込みを入れたりして、こんな素晴らしい作品に仕上げてしまったのでした。ご本人は、「廃物を利用して元が何だか分からないくらいに塗り込めてしまって、『ペーパーレリーフ』とは言っても何となくおさまりが悪いですが、そんな意味でこれは他に例がない物ということになるでしょうね。」とご謙遜。しかし、作品を見てみるとその巧妙に作り上げられた1枚の画に、うなってしまうほどです。銅版画のような、彫刻のような不思議な色合いと質感が、題材とするグリム童話や宮澤賢治の話の雰囲気ととてもよく合って、ユーモラスで動きのある独特の世界をかもしだしています。

そして伊藤さんが作るのはペーパーレリーフだけではありません。ダンボールの性質を利用して、様々な表情をしたお面も作ります。これは、ダンボールの角張った箱から曲面が表現できるのではないかという可能性を実現させたもので、2枚合わせになっているダンボールの裏側の紙だけを縦に切り込んで作り出すのだそうです。こうして生み出された数多くの「顔」は、人間であったり動物であったり様々です。

伊藤さんの「グリム童話」の緒作品は、これまで全国の30数か所で個展が開かれ、2年後にはドイツのカッセルで発表展が予定されています。また、「畑のアトリエ」でも年に数回展示されています。皆さんもぜひ、伊藤さんの作品をご覧になってみてください。きっとその不思議な風合いに魅了されることでしょう。

こちらが不思議な魅力を持つ「ペーパーレリーフ」。カラーでお見せできないのが残念（グリム童話の一場面）

私の趣味
空き缶を使って人形作り
向井　義行さん（入間川在住）

缶の色合いが微妙でおもしろいですね

私が空き缶を使って人形を作り始めたのは、3年前です。孫に何か作ってあげようと思って始めました。缶が発想の転換によって、昆虫や兜（かぶと）、戦車や鳥などに変わっていくのは楽しいし、初めは角張った単純な形の物しかできなかったのが、だんだん細かい部分も表現できるようになるのも、夢中で作り続けている理由です。材料はスチール缶。アルミ缶では柔らか過ぎるんです。道端に落ちているものも利用しますし、家で飲んだ缶だけでなく収集日に出されている缶も使用します。1つの缶で、昆虫なら2ひき出来上がります。近所の子どもたちにも大人気で、わざわざ玄関を叩（たた）いて人形をもらいに来たり、今度はキリギリスを作って、なんてリクエストをくれる子もいるほどですよ。

これからは、小学生の講師などもやってみたいですね。木を使った工作教室はよく開催されているみたいですが、金属を加工することはあまりないから、危（あぶ）なくない金鋏（かなばさみ）の使い方や研（と）ぎ方を教えてあげたい。手工芸を大切にしたいです。私もこうやって手先を使って作業をしているから、脳の働きも活発になるようで、発想の転換にさらにみがきをかけています。いつか、今持っている工具を加工して、車エビなんかが作れたらうれしいですね。

中小企業の事業者の皆さん
福利厚生と事業所の振興に
どうぞお気軽にご利用ください

REPORTER'S EYE

【リポーター】
斉藤　艶子（つやこ）さん（祇園在住）

リポーターズアイでは、行政のしくみや話題性のあることがら、市内のいろいろな施設などを、市民のかたがリポートします。

とてもお得なのはハイウェイカードの斡旋で、この事業が一番人気があり、平成８年度は１年間に1490枚も利用があったそうです

知っててお得です こんなサービス

皆さんは中央公民館の前にある、㈶勤労者福祉サービスセンターをご存じでしょうか。このセンターでは、市内の中小企業勤労者などに対する総合的な福利厚生事業を行っています。具体的には、人間ドックや健康診断の受診補助、退職金共済掛金の補助、西武園などの遊園地や映画館の割引チケット、ハイウェイカードなどの斡旋（あっせん）、指定保養旅館の宿泊補助、永年勤続祝い金をはじめとする各種給付事業などがあります。そのほかにも主催イベントや各種講座の補助など、本当に魅力的で利用したいものばかりです。このセンターの目的は、勤労者の福祉の向上を図り、市内の中小企業の振興に役立つということです。仕組みは、国と狭山市の補助金と会員の皆さんの会費などを資金として、理事会や評議員会の合意を得て各種事業が行われるのだそうです。入会できるのは、市内の中小企業（従業員３００人以下）に勤務するパートタイマーを含む勤労者と事業主、そして市内に居住し、市外の中小企業に従事する勤労者・事業主のかたで、入会金が会員１人につき５００円、会費が年額３千６００円です。事業主がこれらを負担した場合は全額経費として計上できます。狭山市の場合、この会費が全国１２５か所のうちで一番安いのが特長で、県内にはほかに、法人化されている５団体と共済会が１団体あります。

㈶勤労者福祉サービスセンター
（入間川3―1―3、☎55―7811）

私はこの夏、新潟県長岡市の花火大会を見学するバス旅行に参加させていただきましたが、市内で事業を営む者として、なかなか顔を合わせることのない他店のかたと知り合いになり、充実した楽しい時間を過ごすことができました。また、費用の面でも補助があるため、割安のサービスを受けることができました。ぜひまた参加したいですし、これからゴルフ教室などもあるそうなので、こういった講座や教室も楽しそうだと思います。このようなイベントや斡旋などのお知らせは、年4回センターで発行している「サービスセンターインフォメーション」という広報紙に掲載されます。これからもイベント情報などはこまめにチェックして利用したいと思います。

このように便利なセンターですがまだまだ会員が少ないのが現状で、会員数を増やすために理事や評議員のかたが新会員紹介をしたり、職員のかたが各種会議などで説明を行って、一事業所でも多く会員になってもらえることを目標に努力しているそうです。私も、よりよいサービスのため、もっとたくさんのかたが入会してくださるといいと思っています。中小企業で働く皆さん、まずは一度このセンターの事業説明などを聞いてみてはいかがでしょうか。きっと利用したいものがたくさんあると思いますよ。

各種イベントなどは、会員以外のかたでも参加できるものもあります。どうぞご利用ください